

## 卓話「神秘の国エジプト旅行記」

卓話者：片桐 順一郎



## 卓 話           はじめに

昨年12月25日7時30分からNHKで『ミステリーロマン 古代エジプト文明』として1時間放映され多くの方が見られたことと思います。

私は昨年10月9日より10日間『神秘の国エジプト』を旅して来ました。

若かりし頃何とて娯楽が無く、たまに、柳ヶ瀬に映画を観に行くのが何よりの楽しみでした。その中で、エジプトに関するものをいくつか観て妙に頭の中に印象づけられています。『ピラミッド』『クレオパトラ』『ベンハー』その他題名は忘れたが宗教争いの剥烈極まる戦闘シーンが繰り広げられて迫力があつた記憶です。

スケールの大きさや字幕が日本語で出て読む忙しさは洋画独特のものであり、そんな記憶の中から一度は旅をして雄大なシーンそのものを写真でなくこの目で見たいと思っておりこの度ここに実現したのです。

## エジプトの主な概略           (旅の前後に私なりに少し調べてみました。)

- ◎ 位 置   アフリカ大陸におけるエジプトは日本よりやや赤道より   (台湾と同位置)
- ◎ 面 積   日本の約2.6倍(100万㎡)(93%が砂漠地帯)
- ◎ 人 口   7,257万人
- ◎ 首 都   カイロ(人口1500万人)
- ◎ 民 族   アラブ人(極めて少数のアルメニア人・ヌビア人・ギリシャ人)
- ◎ 言 語   アラビア語(公用語)
- ◎ 宗 教   イスラム教・(スンニ派90%)   キリスト教(その他は少数)  
(イスラム教はアルコールを嗜まない)
- ◎ 政 体   共和制
- ◎ 教 育   6・3・3・4義務教育9年   小・中・高・大  
(25%が読書きできない)  
大学は(医学部=6年・工学部=5年・文学部=4年)
- ◎ 兵 役   18歳から(大卒1年・短大卒1.5年・高卒2年・高卒以上3年)
- ◎ 時 差   日本との時差7時間
- ◎ 飛行時間   所要時間   日本(関西空港からドバー11時間20分   ドバーから  
ルクソール   3時間   計14時間20分(乗継待ち時間無し) 通常16時間

#### 4 東岸観光 カルナック神殿

カルナック神殿は大きくアメン大神殿・メンチュ神殿・ムート神殿に分けられるが通常観光客が訪れるのはアメン大神殿であり、アメン信仰の発祥の地として中王朝時代（紀元前 2000 年頃）その後歴代のファラオが増築を行った。アメン神殿は 30km もあり第 2 塔門の間にある大列柱室には 134 本の柱が圧巻、部屋の周りにはレリーフ（浮彫りの彫刻）がしてある。

#### 5 ルクソール神殿（1979 年文化遺産）

カルナック・アメン大神殿の付属神殿として建てられかつてはスフィンクスが両脇に並ぶ 3km もの参道で結ばれていた。神殿の主要部分はアメンヘテプ 3 世によって増築されていった、敷地内にはラムセス 2 世の中庭、アメンヘテプ 3 世の中庭があり、壁にはレリーフ（浮彫りの彫刻）や象形文字などが刻まれている。

#### 6 メムノンの巨像

西岸遺跡の入口に立つ 2 体のアメンヘテプ像（21m）かつてこのあたりは葬祭殿もあったが今はない、夜明けにキーンと音を発するといわれ、ギリシャ神話で母を慕って泣いたエチオピアの王にちなんで「メムノン」と名付けられた。修復により今は泣くことはない。

#### 7 王家の谷（ツタンカーメンの墓）

観光バスで移動すること 200 キロ広い駐車場からトレーラー式電気バスに乗り換えて時速 30 キロの速さで 30 分程の所に 3ヶ所にある。第 18 王朝トトメス 1 世にはじまり新王朝時代（紀元前 1567 年）の歴代フオラスが埋葬されている。墓荒しの盗掘を逃れる為、深い穴を掘り下げて墓を建てた。ツタンカーメンをはじめラムセス 6 世セテイ 1 世トトメス 3 世のものなど、現在では約 60 墓発見されている。

#### 8 ハトシェプスト女王葬祭殿（紀元前 1567 年頃から 1085 年頃）

古代エジプト建築の粋の一つで岸壁の斜面を利用して造られた 3 階立ての葬祭殿壁面には交易の様子や神々の姿などが今も美しい姿のままで残されている。ハトシェプスはエジプト始めての王女、アメン神・父親のトトメス 1 世そして自らのために建造した葬祭殿。バックの山々に小さくあいてある穴は工事に携わった労働者の墓である。3 年程前、エジプトで「テロ」事件で世界に報道された場所である。テロは背景の峰づたいに降りてきて観光客を襲撃、観光客 60 人が犠牲になった。テロ数名はそれぞれに穴に入り自爆したが、目的、テロの実態はいまだに解明されず謎である。

## 9 ナイル河

全長 6680km（日本列島全長 3600km）9ヶ国をまたがり地中海へ、河に浮かんでいる観光船は 150 から 200 隻は運航しているとはこの度のガイドの話。船は大型船で、1階は食堂（ほとんどがバイキング方式）2階は乗船ロビー3階は客室・バー・ラウンジ・ビリヤード4階建て屋上にはプールが真中にあり、周囲は日光浴が出来るデッキ（長椅子）が7～80席はある。どの客室からでも外のパノラマ的な常に移動する景色が眺められる。船は川上のときは時速15キロ下りは20キロの速度で移動している。穏やかな波に揺られての船旅である。世界遺産はほとんどが、ナイル河に沿って顕在しており、日差しが和らげての観光であった。特にライトアップの夜の観光は疲れずに過ごすことができた。河には『エスナ水門』がありここでナイル河が堰き止められ6メートルの水位差をパナマ運河のように水を注入・排水を繰り返して通過する。船旅3日間最終日ガラベイヤパーティー（民族衣装着用）があった。

飲み物は有料だが、船に乗り合わせの人たちが一緒になってゲームに笑い転んで楽しんだ。我々以外はヨーロッパのイタリア人だった。（約40名の参加であった）

## 10 ボルス神殿

四人が一台の馬車に乗り鞭で馬を操り走りながら神殿に向かい観光後、同じ馬車に乗り込んだ。歩き出したら「チップ」の要求。しかも4人分である。両手を使って渡し、納得したかには見えたが、今度は馬の餌代の要求である。言われるままに少額渡したが、最後には馬車から降り馬主もニコリ笑って別れた。

## 11 コムオンポ神殿

ここでワニのミイラが見つかっている。夕刻からの観光で懐中電気持参の方もいた。多くの観光者が入り混じりトランシーバーが大活躍である。離れていても解説が耳に聞こえてくる。

## 12 アブ・シンベル神殿 大神殿

アスワンから280キロ、約三時間観光バスで走り、エジプト最南端ナセル湖のほとりに、アブ・シンベル神殿は、1813年半分以上砂に埋まった状態でスイス人によって発見された。新王国時代(紀元前1567年頃～1085年頃)にラムセス二世によって建造された岩窟神殿。アスワン・ハイ・ダム建設で水没の危機にさらされたが、ユネスコの協力で移転、保存された。(発見から151年後)大神殿の正面にある高さ20mもの巨大なラムセス二世の座像の足元に入口があり、内部には8体のラムセス二世の立像のある列柱室がある。神殿は太陽が昇る東向きに造られているため、その奥の至聖室の神像は年に2回(10月22日と2月22日)だけ、入口から光が差し込む神秘的な設計になっている。

アブ・シンベル神殿 小神殿

大神殿から北へ50m、ラムセス二世が愛する妻ネフェルタニのために、愛と美の女神

ハトホルをたたえて造られた。正面にはラムセス 2 世の立像 4 体とネフェルタニ 2 体が並ぶ。内部にはラムセス 2 世と王妃ネフェルタニの姿が美しいレリーフで残されている。星空のもと、神殿をスクリーンとしてラムセス 2 世と王妃ネフェルタリやアブ・シンベル神殿にまつわる歴史物語を美しい映像で楽しむことができた。観客は 60 人ほどで 40 人が日本人残りはヨーロッパ系外国人のためか日本語で音響も良くはっきり聞き取れた。外人の方は両耳トランシーバーで聞き入っていた。

### 1 3 未完のオリベスク

ここはオリベスク(神殿の前に建てる先の尖った塔)の産地である。長さ 41.75mの切りかけたオリベスク。途中でひびが入って放棄された。もし完成していたらエジプト最大といわれている。赤色花崗岩製当時の石切りの様子が説明された。

### 1 4 フィラエ神殿

アスワン・ハイ・ダムの完成により水量が増えてもともと神殿のあったフィラエ島全体が水没した。ユネスコにより地勢の似たアギルキア島に神殿が移され、現在はアギルキア島をフィラエ島と呼んでいる。

### 1 5 イシス神殿

末期王朝時代(紀元前 750 年頃～305 年頃)からプトレマイオス朝、イシス女神に捧げられた神殿。塔門のレリーフが美しい。1980 年にアギルキア島移築、至聖所にはイシス女神がホルス神を生んだシーンを書いたレリーフがある。

### 1 6 アスワン(駅)

冬のリゾート地として愛されている。緑と砂漠が調和した町、アスワンは花崗岩の産地でギザにあるピラミットの石もここから産出された。

### 1 7 ギザ

クフ王のピラミット。広大な砂漠の中に忽然と姿を現すピラミッド 4500 年の長い年月を過ごし現在もその姿で観光客を迎えてくれる。世界最大の石造建築物一辺の長さ 220 m高さ 147m(40 階建てビル)一つの石の重さ 2.5 t 300 万個このような巨大な建造物がどのようにして組み込まれたかは今なお大きな謎である。

### 1 8 スフィンクス

この建造目的は諸説ある。カフラー王の墓の守護のために造られ、顔はカフラー王身体はライオンという説も。石灰岩製全長 57m高さ 20m最古のスフィンクス。あごひげは現在大英博物館に展示されている。

## 19 エジプト考古学博物館(カイロ)

フランス人考古学者マリエットによって創立された巨大な博物館。部屋数 100 以上あり総数約 12 万点にも及ぶ。『ツタンカーメン』の黄金のマスクは純金約 11k・黄金の王座・副葬品・ミイラ室にはラムセス 2 世のミイラ等古代エジプト文明の遺品や美術品すべてが実物。撮影は一切禁止である。(館内にて冊子購入)

## 20 ムハンマド・アリ・モスク

イスタンブールのブルーモスクを模してエジプト独立功労者ムハンマド・アリによって建てられた。高台に建っているのでカイロ市街が一望できる。メンフィス(古王国時代の首都)古王国時代とは紀元前 2686 年頃～2180 年頃古王国時代の首都の頃国の中心となり繁栄したが風化して失われたが『ラムセス 2 世の巨像』大理石製の聖牛の解剖台などの遺跡がある。

## 21 ジュセル王の階段ピラミット

王の命を受けた大臣イムホテプは当時主流とされていた台状の墳墓(マスタバ墳を積上げて階段状にした(6段 60m)ギザのピラミッドより 10 年程前のもの。

## 22 ダハシュール

途中から傾斜角度が変わるスネフル王(クフ王の父親)の『屈折ピラミット』がここにある、表面の化粧石がきれいに残っている。スネルフ王はダハシュールに 2 基のピラミッドを建設しておりもうひとつは石が赤いことから『赤のピラミット』と呼ばれている。

## 23 アレキサンドリア

紀元前 332 年マケドニア王国アレキサンダー大王によって建設され王朝最後の女王クレオパトラがいた街で名所がいくつかある。

## 24 ポンオエイの柱

アスワン産の花崗岩からつくられた円形柱で約 30mにも及ぶ、かつては 400 本もの円柱があったとも言われている。

## 25 ローマ円形劇場

エジプトに現存する唯一の円形劇場。敷地内にはローマ風の共同浴場跡も残っている。発掘前この場所は墓地だった。

## 26 グレコ・ローマン博物館

グレコ・ローマン時代の遺物が中心約 4000 点あり、カイロのエジプト考古学博物館に並ぶ代表的な博物館。

### 旅行記 編集後記

- ◎ 雨が降らず、湿度がなく雄大なナイル河の恵み。そんな地形だからこそ 5000 年もの永きこのような、建造物が保たれたのだろうか。災害は砂漠の砂によって何百年もの埋もれていて採掘にも花崗岩や石灰岩いずれも石であったことが幸いであろう。謎の多きことにマスコミを通じてこれからも知らされて行くであろうし、興味深く見据えて行きたい、現地を見てきただけに。
- ◎ 特に不便さを感じたのは排便である、使用した紙は所定の器に入れることがなれておらず、トイレシャワーがないことも日常なれているせいで。
- ◎ お国柄、(イスラム教)アルコールがない。
- ◎ 往復の機内食事にもアルコールがない。

10 日間の長旅だったが、体調もくずれず元気に帰宅できたことに感謝している。いくら旅なれしていても国内の旅とは違う。日常生活から一変の変化が押し寄せ時差・食べ物・飲み物・睡眠・体調が変わる。いかに自己体調管理が保てるかにある。団体行動をする限り、迷惑の掛らぬようすべきではあっても、不調は避けてしかるべきである。ともあれ二人が元気で帰宅できたことに感謝である。